

付録 A Haskell のレイアウトルール

これまで Haskell のレイアウトルールについては明確に述べていなかった。Haskell は字下げ（インデント）の仕方により、字句解析・構文解析が影響を受ける言語である。（ブレースやセミコロンを明示的に使って影響を受けないようにすることも可能である。）

例えば、

```
f x = let a = 1; b = 2
      g y = exp2
      in exp1
```

という式は、

```
f x = let {a = 1; b = 2
          ;g y = exp2
          }in exp1
```

と解釈される。レイアウトルールはこのようなブレースやセミコロンがどのような場合に挿入されるかを定める。

以下は Haskell の仕様書である「Haskell 98: A Non-strict, Purely Functional Language」の § 2.7 からの抜粋である。

Haskell permits the omission of the braces and semicolons by using layout to convey the same information.

Haskell はブレースとセミコロンを同等の情報を持つレイアウトを使うことによって省略することを許している。

（中略）

The effect of layout on the meaning of a Haskell program can be completely specified by adding braces and semicolons in places determined by the layout. The meaning of this augmented program is now layout insensitive.

レイアウトの Haskell プログラムに対する効果は、レイアウトによって決定される場所にブレースとセミコロンを追加することにより完全に記述することができる。すると、その追加の結果のプログラムの意味はレイアウトに依存しなくなる。

Informally stated, the braces and semicolons are inserted as follows.

ブレースとセミコロンはおおむね次のように挿入される。

The layout (or “off-side”) rule takes effect whenever the open brace is omitted after the keyword **where**, **let**, **do**, or **of**.

レイアウト（あるいは“オフサイド”）ルールは **where**, **let**, **do**, **of** というキーワードの後で開ブレースが省略された時に、有効になる。

When this happens, the indentation of the next lexeme (whether or not on a new line) is remembered and the omitted open brace is inserted (the whitespace preceding the lexeme may include comments).

このときは、(新しい行にあるかどうかに係わらず) 次の字句の字下げ数が記憶され、省略された開ブレースが挿入される。(字句の前の空白はコメントの場合もある。)

For each subsequent line, if it contains only whitespace or is indented more, then the previous item is continued (nothing is inserted); if it is indented the same amount, then a new item begins (a semicolon is inserted); and if it is indented less, then the layout list ends (a close brace is inserted).

それに続く各行について、もし、それが空白のみを含むか、より多くの字下げがされているならば、直前のアイテムが継続される(つまりなにも挿入されない)。もし、同じだけ字下げされているなら、新しい項目が始まるとみなす(セミコロンが挿入される)。もし字下げ数が少ないならばレイアウトリストは終わりともみなされる(閉ブレースが挿入される)。

A close brace is also inserted whenever the syntactic category containing the layout list ends; that is, if an illegal lexeme is encountered at a point where a close brace would be legal, a close brace is inserted.

閉ブレースはレイアウトリストを含む構文カテゴリが終了する時にも挿入される。つまり、閉ブレースが現れても良い時に不正な字句が現れた時、閉ブレースが挿入される。

The layout rule matches only those open braces that it has inserted; an explicit open brace must be matched by an explicit close brace.

レイアウト規則は開ブレースが挿入された時にのみ発動される。明示的な開ブレースがあったときは、明示的な閉ブレースで終らなければならない。

Within these explicit open braces, *no* layout processing is performed for constructs outside the braces, even if a line is indented to the left of an earlier implicit open brace.

このような明示的な開ブレースのなかでは、そのブレースの外側の構成要素に対しては、たとえある行が以前にあった暗黙の開ブレースよりも左から始まったとしても、レイアウトルールは適用されない。